

人格検査・その他の検査

1. 因子—特性理論：特性をパーソナリティ構成の単位としてとらえる

特性 (trait)：個人が様々な状況の中で一貫して示す行動傾向

ex.Cattell,R.B,16 の根源特性

メリット： 各個人の有する諸特性の量的差異が明らかになるため、各個人の性格特徴を詳細に読み取り、個人間の相違を比較しやすい

デメリット： 人格の統一性や独自性をとれにくい

1) ビックファイブ説 (McCrae & Costa,1990;Jhon,1990)

神経症的傾向 (Neuroticism)：ディストレスに対する敏感さ

外向性 (Extraversion)：社交性、活動性、快活な傾向

開放性 (Openness)：想像力、感受性や知的好奇心の強さ

調和性 (Agreeableness)：利他的な度合

誠実性 (Conscientiousness)：自己統制力や達成への意志

2. 類型論：個人の全体像を総合的に把握しようとする

何らかの理論や基準に基づいていくつかの典型的な類型を見出し、個人のパーソナリティを理解しようとする。質的把握や事例に関する研究法

メリット： 質的な吟味が行われる

デメリット；比較的少数の典型的な類型に分類することで、中間型や混合型を見逃しやすい
典型的な特徴が重視され、個別の特徴が無視されやすい
各個人の程度の差がしめされない

1) 体格—気質類型論 (Kretschmer,E)

1) は基本的特徴、2) 3) は対照的であるが同一の人に混合して存在する特徴

細長型体型—分裂気質：非常に敏感で傷つきやすい側面と、鈍感と関心が狭い側面

1) 非社交的。静か、控えめ、まじめ、変わり者

2) 臆病、恥ずかしがり、敏感、神経質、興奮しやすい、繊細、自然や書物に親しむ

3) 従順、温和、無関心、鈍感

肥満型—循環気質：明朗で生活を楽しみ行動的で決断が早い状態と、控え目で決断を迷うことが多く、悲観的である状態とが交互に、あるいは一方のみが現れる

1) 社交的、善良、親切、温厚

2) 明朗、ユーモア、活発、激しやすい

3) 寡黙、平静、陰鬱、気が弱い

2) 外向—内向類型論 (Jung,C.G)

心的リビドーの向う方向をおもな基準とした類型

外向型：関心を積極的に外界に向け、自分と外界との関係の中で考えたり行動したりする

内向型：関心が自分自身のうちに向けられる

3. 性格・人格検査

特有の性格理論から作成し、理解をしようとするもの

1) 質問紙法

性格の一側面あるいはいくつかの側面に関する多数の質問項目に対して被験者が複数の選択肢の中から回答する方法。

メリット：集団実施が可能。実施、採点、数量化が比較的容易。

結果の解釈に主観が入りにくい

デメリット：被験者の反応歪曲が起こりやすい

代表的な検査法：Y-G 性格検査、MMPI、MAS、エゴグラムなど

2) 投影法

あいまいな図形や文章を刺激として提示し、口頭や文章や絵で回答を求め、そこに投影された被験者の言語的・非言語的反応からその人独自の性格を査定・理解する方法

メリット：個人の内的世界の無意識的水準まで知ることができる

被検者に自分の反応の意味が分かりにくいため反応歪曲が起こりにくい

治療的な役割も果たすものがある

デメリット：性格理論の根拠が曖昧である

結果の処理や解釈は検査者の技量に依存する部分が多く主観が入りやすい

代表的な検査法：ロールシャッハ法、TAT、SCT、描画法、P-F スタディなど

3) 作業検査法

被検者に一定の明確な作業課題を課し、その作業の量、質、経過などの結果から性格を査定・理解する方法

メリット：集団実施が可能

適応範囲が広く、実施や採点・結果の数量化が容易

意図的な反応歪曲が起こりにくい

デメリット：判定の基準にいまひとつ客観性が欠ける

代表的な検査法：内田クレペリン精神作業検査、改訂 長谷川式簡易知能評価スケール